資料1

# 白岡市第8期障害福祉計画(障害児福祉計画を含む)策定のためのヒアリング等

# 結果概要

## 1 実施概要

実施日：令和８年８月28日、９月14日、16日、17日

実施場所：はぴすしらおか会議室、健診室、仮設庁舎相談室、西小学校教室

＊各団体・事業所、学校には、事前にヒアリングシートを提出いただき、記入内容を基本として、ご意見をいただきました。西小学校以外の市内小中学校については、意見シートの提出をお願いしました。

## 2 実施団体等

白岡市の障害児者の福祉を考える連絡協議会、白岡市聴覚障害者協会、白岡市民生委員・児童委員協議会、白岡市ボランティア連絡会、社会福祉法人 白岡市社会福祉協議会・ありの実館・東ありの実館、白岡市障害者デイサービスセンター、埼葛北地区基幹相談支援センター「トロンコ」、埼葛北地区地域生活支援拠点「オリーバ」、埼葛北障害者生活支援センター「たいよう」、埼葛北障害者生活支援センター「ふれんだむ」、久喜特別支援学校、西小学校、菁莪小学校、篠津小学校、南小学校、白岡東小学校、菁莪中学校、篠津中学校、南中学校、白岡中学校

## 3 ヒアリング結果概要

### (1)相談支援体制について

○相談に行ったときには、落ち着いて話ができるような環境にしてほしい。また、相談する側はサービスや制度について知らない、わからないことが多いので、積極的な情報提供や丁寧な対応をしてほしい。

○障がい者を看ている親が高齢化している家庭が多い。親や家族が元気なうちから、サービスや必要な支援とのつながりが持てるようにすること、将来の生活の見込みが立てられることが大切だと思う。安心して暮らしていけるよう、相談やサービスにつなげてほしい。

○サービスを利用していても、計画相談を利用せず、セルフプランでいる障がい者も多いのではないか。状態の変化や本人の希望に沿って、必要なサービスが受けられるよう、計画相談を活用できることが重要だと思う。

### (2)サービスについて

○障がい者を介護している親が高齢化している（老障介護）ことや緊急時への対応として、ショートステイの利用希望がある。しかし、需要に対して事業所の数が十分とは言えず、希望通りには利用しにくい、緊急時には対応できないケースがある。緊急時にも対応できるようにしてほしい。地域生活支援拠点の活用を進めていくことが重要である。

○障がい者本人の高齢化・重度化、障がい者家族の高齢化など、「親なき後」でも、住み慣れた地域で安心して過ごせる暮らしの場が求められている。グループホームや入所施設を充実してほしい。また、生活介護やヘルパーなどの生活を支えるサービスが不

足している。
○計画相談支援の事業所が少ない状態が続いており、体制を強化したいが、困難な面が多く苦慮している。
○本人の障がいだけでなく、家族の高齢化や生活困窮などの複合的な課題を抱えている家庭も少なくない。連携した相談支援体制が必要である。
○公共交通が利用できず移動ができない、また家族が車で送迎できないために、サービスの利用や外出を伴う様々な活動が難しくなっている。移動を支援するサービスの充実やのりあい交通の利便性を高めるなど、移動の支援策を充実してほしい。
○白岡市単独の障がい者就労支援センターの設置を進め、障がい者の就労支援を強化してほしい。

(3)障がい児への支援について
○子どもの障がいや発達の遅れが分かった時から、切れ目のない継続的なつながりと相談支援が重要である。また、障がい児については、こども家庭センターを始め、保健、福祉、教育など、多岐に渡る関係機関との連携や調整が必要であることから、関係機関の連携の仕組をつくることが必要である。
○中核となる児童発達支援センターの面的整備について、推進していくことが求められる。
○放課後等デイサービスや児童発達支援の利用は増加している。放課後等デイサービスを利用している障がい等がある児童・生徒は多く、小・中学校の現場では必要な情報を共有するなどの連携を図っている。

(4)情報提供やコミュニケーション支援について
○障がいに応じた情報提供やコミュニケーションの支援を行ってほしい。また、手話通訳者を設置してほしい。
○災害時や緊急時に必要な情報が得られるのか不安である。手話通訳をつけた講座や防災訓練などもお願いしたい。

(5)障がいの理解や地域での支援(地域共生社会)などについて
○地域全体で障がいのある人をサポートしていくことが必要である。小さいころからの意識づくりが重要。
○個人情報に対する警戒心があり、人とのつながりが持ちにくい、そのため地域の支援の手が届きにくいこともある。地域の手助けや支援が届くような状況になるといい。
○今後、充実すべきサービスは具体的な何かだけではなく、社会の価値観も含めた社会福祉制度全体をよくする事だと思う。

(6)その他
○近年は、団体に新規で加入する人も少なく、会員の高齢化が進み、活動が停滞している団体も出てきている。
○事業所は人手不足が続いている。給料などの待遇面、労働環境、福祉に対する理解不足などが人材確保を難しくしている。
○防災に対する意識は高まっているが、実際に災害が起きたとき、個別避難や避難所、福祉避難所の利用などについて、不安がある。